

藤町と呼べり。是杉浦町と全く同じ。杉浦仁右衛門も居室は味噌藏町の邊なるよし、延寶の金澤圖に見ら、元祿六年の士帳に、杉浦吉藏味噌藏町津田宗兵衛隣。とあり。吉藏は仁右衛門の孫なり。淺野茂枝曰く、昔は其の町内の大身なる人の名を以て町名とす。所謂出羽町・彦三町・勘解由町などはなり。安藤町・杉浦町などの苗字を以て町名とせしは、其の組子の組地を呼べる例ならんかと。此の論説さもあるべく聞ゆ。然るを今本多町・里見町・茨木町など、皆苗字を以て町名とせしは後世の事にて、古き町名には其の例甚だ稀也。

○杉浦仁右衛門守成傳

杉浦譜に云ふ。仁右衛門守成の祖父は安藤伊賀守範俊と稱し、美濃國西方河戸の城主也。父は圖書某と云ひ、初め金吾中納言秀秋に仕へ、慶長八年池田輝政に仕へて、二千石を領す。仁右衛門守成も初め池田輝政へ仕へ、安藤氏を改めて杉浦とす。寛永十四年中納言利常卿召出され、藩士の列に加へられ、加恩とも八百石を賜はり、慶安二年足輕頭と成り、延寶五年免ぜられ、翌六年歿すと。有澤永貞の古兵談殘蘗集に云ふ。利常卿御在世後には、坂井與右衛門・杉

浦仁右衛門只二人ならで足輕頭無之、足輕も二百許ならで無之由。是は大坂にて足輕は用に不立との御意ある故なり。伊達政宗は足輕を多く持ち、大坂にても用に立ちしと云ふ。然らば名將にても、其用の試み知り給ふ處に依りて、其心得違ひある事歟。又云ふ。杉浦仁右衛門は人を討ちて立退きしに、鞘を落し出でたるを心付き、又其家へ入りて鞘を取りて來りしより其名高し。其頃餘程の働きありければ、一廢の用にも立ちさうなる者と、利常卿へ御家老衆の内より申上げゝるに、それは奉公はせまいかと仰せらる。何れも奉公は仕度存すべけれども、仇敵を持ちたれば江戸詰も致し兼ねべし。今も身を隠し居申由承ると申上げゝるに、それならば國に置きて江戸へは連れぬ也。尋ね見候へと仰出され、則相尋ぬるに、如何やうとも申由に付、被召出なり。といへり。混見摘寫には、杉浦仁右衛門人を討ちて身を隠す跡也。其砌餘程の働き在之、一廢用にも立ちさうなりと、中納言様へ御家老衆御申上げゝる、それは奉公せまいかと仰せらる。何も申上るは奉公は仕度可存候得共、敵もちけるゆゑ江戸詰など仕事難成候故、願申事は仕

間敷よし申上らる。それならば國において、江戸へは被召連まじく旨。尋候へと御意なり。前殿より何とぞ願奉りたけれども、中納言様以ての外御こと、被成ゆゑ、能きものは申上候而も、奉願など、云ふ事ならず。相尋候へば如何やうとも奉願と申上げらるゝと、被召抱也。人を討ち立退候時、刀の鞘を落し立退きたるを、又立歸り其家へ行き、鞘を取り來る故、その功高し。其子庄兵衛、其子吉藏也。といへり。按するに、右人を討つて立退きたりといふは、池田家に仕へありし時の事にて、其の頃まで苗字を安藤と稱せしを、杉浦と改めたるも、身を隠す爲なるべし。かゝる人世に稀なりといへり。

○枝町

元祿九年の地子町肝煎裁許附に、枝町と既に載せたり。此の町は新堅町の中程、廣見の裏町にて、杉浦町の上なり。小家のみ比屋せり。或は云ふ此の地邊は昔は河原にて、其の頃は此の地穢多共の居住地なり。後町地となりし頃、穢多町と呼びたりしを、穢多の文字を忌みて、枝町となしたるにやといへり。按するに、傳馬町廣見の小路に古藤内町

といふあり。むかし藤内の居住地なるゆゑなりといひ傳へたり。穢多町も是に似たり。

○木藏屋敷町

元祿九年の地子町肝煎裁許附に、枝町の次に木藏屋敷町といふ町名を載せたり。此の町名絶えたるか、それより後所見なし。國事昌披問答などにも、新堅町・枝町・鱒町・犀川除町とありて、木藏屋敷町といふ町名は記載せず。按するに、昔は木藏屋敷とて、此の地に材木藏ありしゆゑに、町名に呼びたるものか、又はその藏跡を地子地となし、家屋を建て、木藏屋敷町とは呼びたるならん。木倉町の材木藏の條と併考すべし。

○早道町

此の町は、枝町の上にて、新堅町の裏町なり。舊藩中は輕卒の組地なり。延寶の金澤圖を見るに、此の地邊は都て足輕の組地にて、山本久左衛門預足輕・長瀬新九郎預足輕、其の外明組定番足輕等の組地なるよし記載す。或は云ふ。此の地に昔は早道とて、飛脚用を勤むる輕卒の邸地に初めて賜はりけるに依りて、早道町と呼べり。尤其の頃は戸敷